

第1学年 図画工作科学習指導案

題 材 「あかおにのおはなし ～ないたあかおに～」(絵に表す)

指導観

○ 本学級の児童達は、今までに「すきなものいっぱい」「たのしかったうんどうかい」の題材で「絵に表す」活動に取り組んできた。中でも、自分の表したい場面を選んでかいた運動会の絵では、楽しかった様子を表すための画面づくりとして、中心に自分の姿を大きく表現する児童と自分や友達を数多く表現する児童とがいた。そこで、本題材では、物語の主人公を中心に、表したい様子を画面全体を使ってかいたり、形や色を繰り返しかき込む、いろいろな方法を選び、試み、表すことのできる活動的な表現活動を仕組みたい。

○ 本題材は、物語「ないたあかおに」をもとにして、心に残った場面を「おに」の形を考えながら画面作りをしていきたいと考える。ここでは、児童自身が自分の表したい形を自分で動かす中で選び、形や色などの面白さ美しさを感じ取り、選択するなどの基礎的、基本的な能力を付けることをねらいとしている。

本題材を子どもたちが取り組む上で、次のような価値があると考えられる。

- ① 物語の「おに」はやさしさに触れられる、感動的なストーリーであり、子どもたちの心にしみいるものである。
- ② 「おに」という明確な主人公がいるため、主題が分かりやすく、心に残りやすい。
- ③ 「赤おに」「青おに」の登場で、色彩的な美しさが期待される。
- ④ 「主」となるおにの体で画面づくりの試行が出来、子どもが新たに思い付いたことをもとに描いたりつくったりすることができる。
- ⑤ 「従」となる登場人物や周りの様子を、クレヨンや色ペン等多様な描画材で繰り返し楽しみながら書き加えることができる。

○ 本題材の指導と評価にあたっては、まずはじめに物語との出会いを大切に、雰囲気高めたり、物語の読み方を工夫したりして場面の様子が心に残りやすいように仕組むことによって、興味、関心高めさせたい。その際、子どもたちのこれまでの読書体験や行事等の体験から「こわいおに」を想起させ、題材名「ないたあかおに」のおにがなぜ泣いたのかということに気付かせたい。物語を聞くことで、今まで知っていた「おに」とは違った「やさしさ」があることや、なぜけんかをしたのか、なぜ泣いたのか、主題に関わる内容を印象付けさせる。

つぎに、物語や子どもの絵の主題となる「おに」の体を自分の思いに沿った形につくるために、体の各部位をもとに、画面の中で動かしたり切ったりしていろいろな形をつくって楽しみながら画面全体を表していく。その際、形の作り方や表し方について思い付いたことを進んで試し、その結果表したいようになつたりならなかったりする体験を仕組むことによって、いろいろな工夫や付け加えを考えていかせたい。

さらに、主となるおにを画面に表した後は、その背景の色や細かい描写を書き加えて

いく。クレヨン、サインペン、色ペンなど多様な描画材による細かな表現や、水彩絵の具によるタンポやローラーでの広い面の色等、児童が表し方を選び、形や色の感じなどを楽しみながら思いのままに使う表し方を工夫させていきたい。

鑑賞の際には、自分と違う場面を表した友達や自分と違う紙や絵の具やパスの表現をした友達の作品に気付き、いいところやおもしろいところを見つけ合う活動を仕組んでいく。児童一人ひとりが満足感にひたることの出来る時間としたい。

本題材を通しての評価については、児童が思いに沿った満足できる活動であったかを示す自己評価カード、児童の表情や作品などからの行動観察、一人ひとりの児童との対話、つぶやきなどから見取り、評価補助簿を活用した評価を行っていく。

目 標

○ 物語を聞いて心に残ったことを、形や色を作って楽しんだり作り方を考えたりしながら、思いのままに絵に表すことができるようにする。

題材の評価規準・評価基準

	造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能
評 価 規 準	○ 色や形、表し方などに新たな出会いや発見をすることに関心をもっている。 ○ 興味や関心のあるものを見て、感じたことや見付けたこと、思い付いたことなどを話す。(鑑)	○ 描きながら思い付いたことをふくらませる。	○ かいたり、つくったりしながら、形や色などの面白さや美しさなどを感じ取る。
評 価 基 準 (B)	○ 物語の中で、心に残った場面のおにやまわりの様子を思い浮かべることができる。 ○ 友達の作品と自分の作品との違いに気付く、それぞれのよさに気付く。(鑑)	○ おにの体となる部分の紙を選び、自分の思いにあった色を試しながら着けることができる。 ○ おにの体の大きさや動きや向きを考えて、体の各部位を組み立て、形を決めることができる。	○ 着色した紙を、手でちぎったりハサミで切ったりしておにの体の各部位を切り取ることができる。 ○ おにの周りの様子や近くの様子を、クレヨンやサインペン、色ペン等の描画材で細かくかき表すことができる。

指導と評価の計画(全6時間)

時間	子どもの活動	評価基準 (B)			指導 (活動提案・材料提供など)
		関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 行事や他の物語の登場人物について思い出し、今日のお話の主人公について予想する。 ○ 物語「※ないたあかおに」の読み聞かせを聞く。 ○ 物語を聞いて心に残ったことを発表し合う。 ○ 画用紙にどの様子のおにを表現するか鉛筆やチョークで大まかに表しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 物語の中で心に残った場面を思い浮かべることができる。 			<ul style="list-style-type: none"> ○ むかし話を始める際に拍子木等を打ち、雰囲気を出す。 ○ おにのお面等を準備し、その印象を出し合う。(※) ○ 物語「※ないたあかおに」を朗読する。 ○ 心に残った場面を話せる雰囲気を作る。 ○ おにはどのくらいの大きさを表したいか尋ね、画用紙を準備する。 ○ 活動のふりかえりをする。
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 物語「※ないたあかおに」を聞く。 ○ どのようなおにを表したいのか考え、体の色を紙に着色する。 ○ 頭や首、手や足など体の各部を大まかな大きさを鉛筆で決めてかいておき、手でちぎったりハサミで切ったりして分けておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 物語の中で心に残った場面のおにの様子を思い浮かべることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ おにの体となる部分の紙を選び、自分の思いにあった色を試しながら着けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 着色した紙を、手でちぎったりハサミで切ったりしておにの体の各部位を切り取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 物語「※ないたあかおに」の読み聞かせをする。 ○ おにの体の色となる明るめの色(赤系)の絵の具と、おにの体になる薄目の紙を選べるように準備し、ローラーでぬることができるように準備をする。 ○ おにの体のつくりを考え、頭、首、胴体、手足等の各部位を提示する。 ○ 切り取った体の部位の画用紙上での作り方を説明する。 ○ 活動のふりかえりをする。
3					
4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 物語「※ないたあかおに」を聞く。 ○ どのような場面を表したいか考え、おにの動きを想像しながら、体の各部分を画面上で動かしたり切り離したりして、形を決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 物語の中で心に残ったおにやまわりの様子を思い浮かべることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ おにの体の大きさや動きや向きを考えて体の各部位を試しながら組み立て、形を決めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ おにの周りの様子や近くの様子を、クレヨンやサインペン、色ペン等の描画材で細かくかき表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 物語「※ないたあかおに」の読み聞かせをする。 ○ 表したいおにの動きを想像しながら、体の各部位を画用紙上で動かし、画面づくりをしていく。 ○ 構成したおにの周りに、付け加えたい風景や細かい様子をクレヨン等の描画材にてかく。 ○ 子どもが気に入った色を絵の具で着けられるよう準備する。 ○ 背景色の着色には、淡い色が出るようにタンポ等準備する。
5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 動きを表したおにを画面上に貼る。 ○ 貼付したおにのまわりの様子を表す。 ・ 近くの様子は描画材での細かい表現の工夫 ・ 遠くの様子は絵の具で広い面の表現の工夫 				
6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の作品の「しょうかいカード」を書く。 ○ 友達の作品と自分の作品との違いを見つけ、友達のいいところやおもしろいところを発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達の作品と自分の作品との違いに気づき、それぞれのよさに気付く。(鑑) 			<ul style="list-style-type: none"> ○ 作品の「がんばったところ」を中心に、お互いの色や素材、形などの表現のよさに気づき、認め合う雰囲気を作る。

第1学年1組 本時図画工作科学習指導案(4/6時間)

場所 1の1教室

本時の目標

- 物語の中で心に残ったおにやまわりの様子を思い浮かべることができる。(造形への関心・意欲・態度)
- おにの体の大きさや動きや向きを考えて、体の各部位を試しながら組み立て、形を決めることができる。(発想や構想の能力)

本時の展開

学 習 活 動 と 内 容	評 価 基 準 (B) ・ 評 価 方 法	指 導 (活動提案・材料提供など)
<p>1. 本時の活動について知る。</p> <p>(1) 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> めあて おにのはなしをきいて、こころにのこったおにのようすを、うごかしながらきめていこう。 </div> <p>(2) 物語「※ないたあかおに」の読み聞かせを聞く。</p> <p>2. おにの体の各部分を操作してからだの様子を決め、画用紙上においていく。</p> <p>(1) おにの体の各部を曲げたり動かししたりする。</p> <p>(2) 太さや細さ、長さや短さ、のぼしたり曲げたりして、考えながらおいてみる。</p> <p>(3) 動きが分かりやすいおにのからだの様子を画用紙上に貼る。</p> <p>3. 画面上に貼付したおにの体の背景に、まわりの人物や風景を描く。</p> <p>(1) クレヨン、サインペン等で細部を描く。</p> <p>(2) 付け加えたいおにへの飾り(髪の毛、服等)などを付けたり描いたりする。</p> <p>4. できたものをみてがんばったことや楽しかったことを話したりする。</p>	<p>(造) 物語の中で心に残ったおにやまわりの様子を思い浮かべることができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ○子ども同士の話し合いや発表から見取る。 </div> <p>(発) おにの体の大きさや動きや向きを考えて、体の各部位を試しながら組み立て、形を決めることができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ○表したいおにの様子を思い浮かべながら、体の各部位を曲げたり動かししたりして置き換えたり切ったりしている行動の様子を見取る。 </div>	<p>○ 子どもたちの「おに」への印象を聞いたり、どのようなおにを描きたいのか思い浮かばせやすくするため、色々な「おに」の場面の様子を紹介する。</p> <p>○ おにの体の各部をうごかして形を決めていくよう伝える。</p> <p>○ 物語「※ないたあかおに」の読み聞かせをする。</p> <p>○ 画面上のおにのつくり方を伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太さや長さ、曲げ方等変えながら画面上に置く。 ・自分の表したい形ができた場合はそこに印を付け、体の各部位を貼り付けていく。 <p>○ 活動が停滞している子どもには、対話によってその子のどんなおにの場面をつくりたいのかという思いを聞きながら、一緒に活動したり他の友達の活動を紹介したりする。</p> <p>○ 活動が進んでいる子どもには、活動の様子を見守りながらおにの体の動きの様子について対話したり、工夫を賞賛したりしていく。</p> <p>○活動が早めに終わった子に対しては、描画材の用意を伝えておく。</p> <p>○手前の様子には細かな表現が出来るようなクレヨンやサインペン等の準備をしておく。</p> <p>○ 自分や友達の活動のよいところや面白いところに気付くようにするために、本時の活動でできたものを全員でみる。</p> <p>○ 今後の学習意欲へとつなぐために、子どものおにのつくり方への気付きに共感したり、表現のよさを認める言葉かけを行う。</p>